

焼岳の火山活動解説資料（平成 24 年 12 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 23 年 3 月 31 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1、図 2※）

北陸地方整備局が設置している焼岳北カメラ（焼岳の北北西約 4 km）による観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは 0～50m で経過しました。また、同局設置の焼岳南西斜面カメラ（焼岳の西北西約 2.5 km）による観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは 10～70m で経過しました。その他の地域で噴気は認められませんでした。

・ 地震活動（図 3－①、図 4※）

焼岳付近を震源とする火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図 3－②③④※）

GPS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

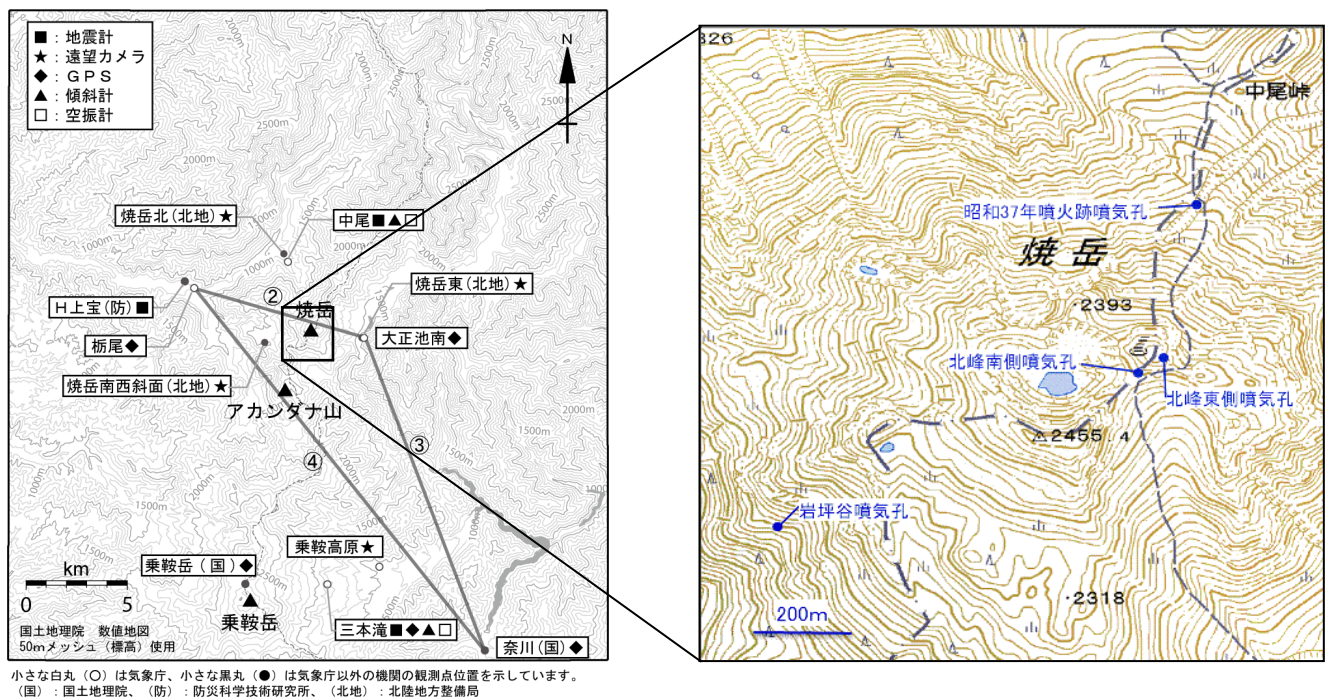


図 1 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置
GPS 基線②～④は図 3 の②～④※に対応しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 25 年 1 月分）は平成 25 年 2 月 7 日に発表する予定です。

※この記号の資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び北陸地方整備局のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2 万 5 千分 1 地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図 2※ 焼岳 山頂部及び南西斜面の状況
(左図：12 月 27 日 焼岳北カメラ、右図：12 月 27 日 焼岳南西斜面カメラ)

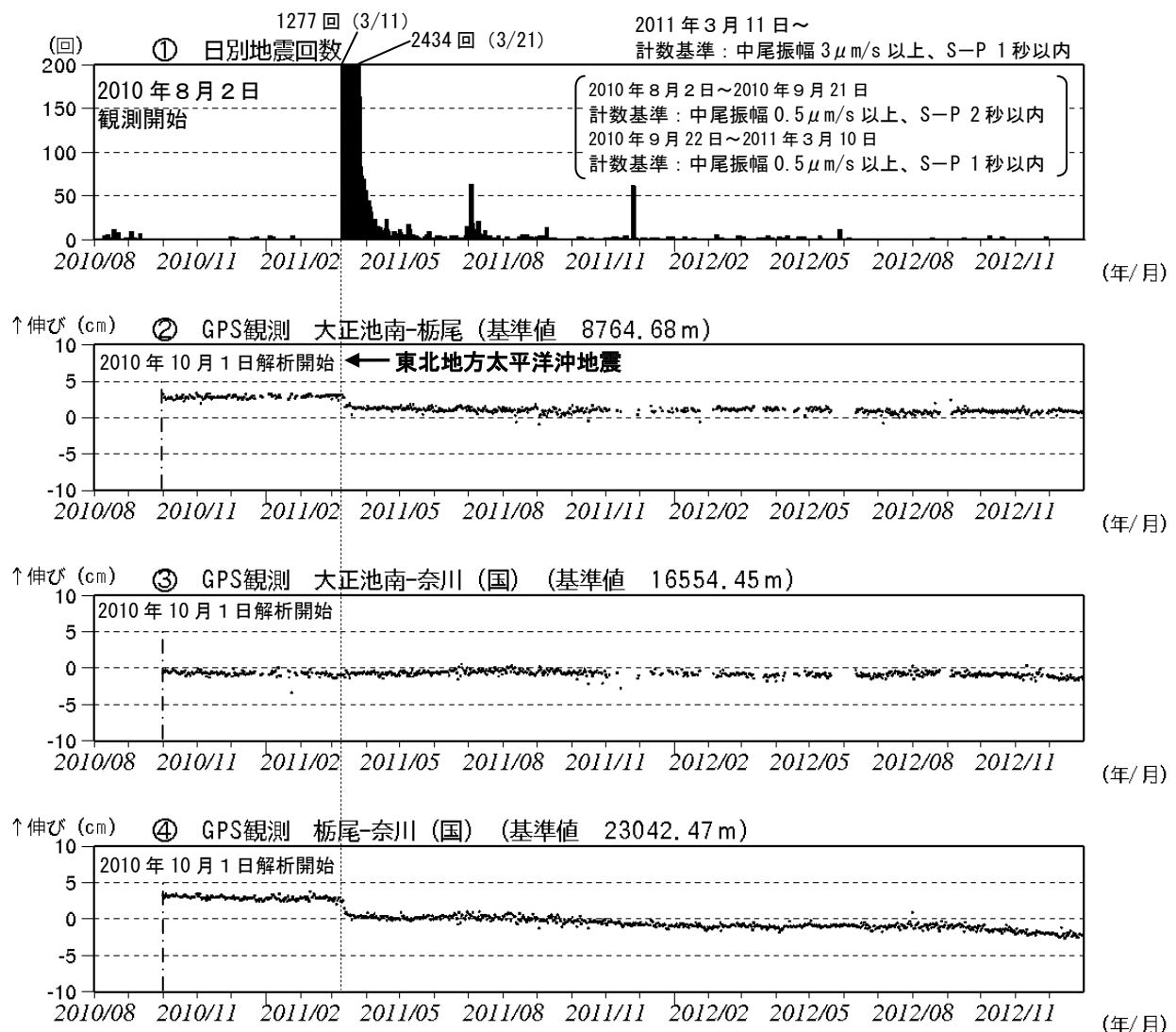


図 3 焼岳 火山活動経過図 (2010 年 8 月 2 日～2012 年 12 月 31 日)

① 焼岳周辺の日別地震回数

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。

②③④※ GPS 連続観測による基線長変化 (国)：国土地理院

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、データに飛びがみられます。

②③④※ は図 1 の②③④に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

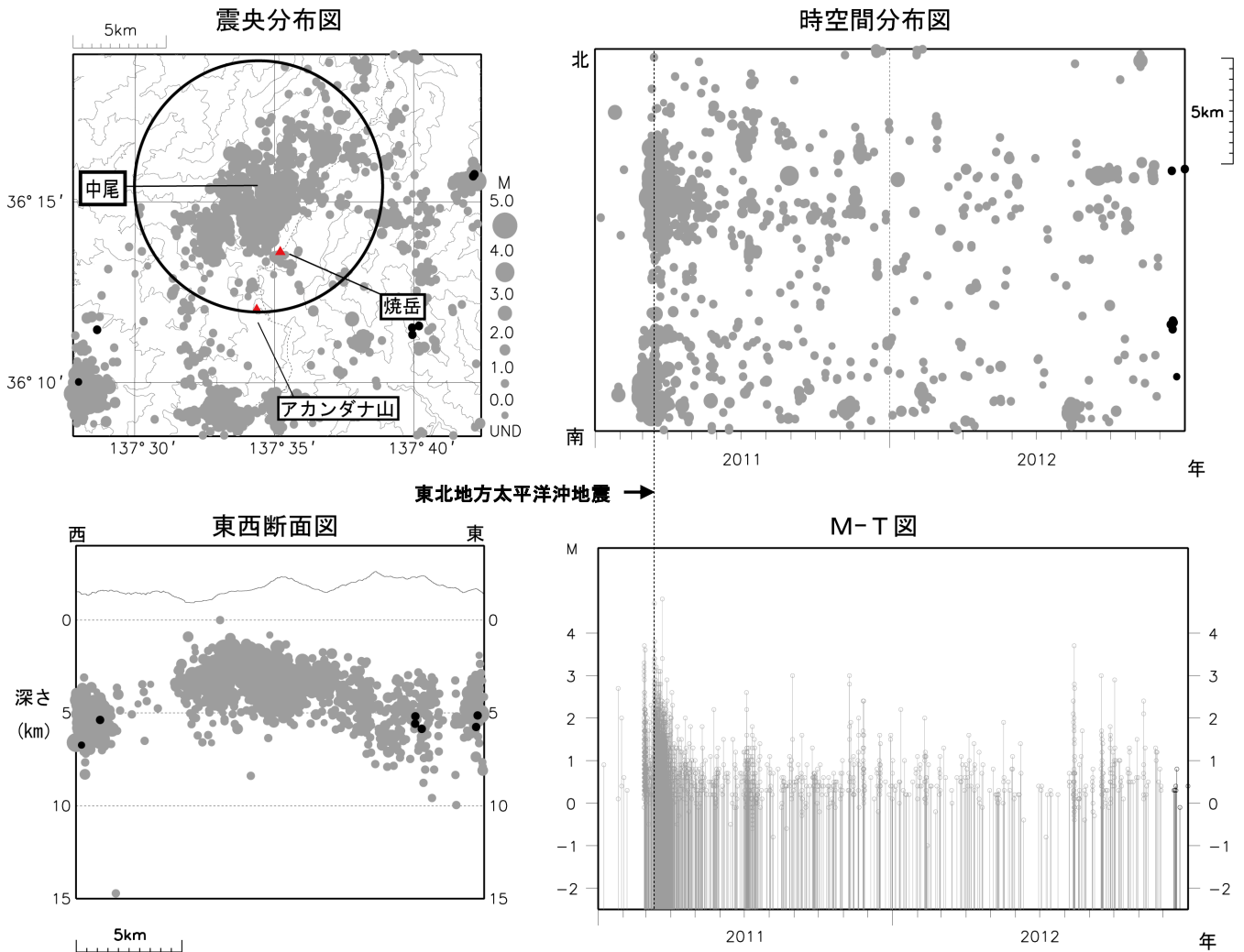


図 4 ※ 焼岳 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2011 年 1 月 1 日～2012 年 12 月 31 日)

● : 2011 年 1 月 1 日～2012 年 11 月 30 日

● : 2012 年 12 月 1 日～2012 年 12 月 31 日

震央分布図中の円は図 3 - ①の計数対象地震（中尾で S - P 時間 1 秒以内）のおよその範囲を示します。

M（マグニチュード）は地震の規模を表します。

今期間、計数対象の火山性地震で震源が決定されたものではありません。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。